



サトリの ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗経王寺住職
互井観章さん

第36回

大切な人との付き合い方は 緩く、長くが秘訣です



たがい・かんしょう 1960年生まれ、東京都出身。北里大学獣医学部畜産学科卒業後、アメリカの牧場で酪農に従事。帰国後、立正大学で仏教を学び僧侶に。一般社団法人「仏教情報センター」前事務局長。仏教テレフォン相談や生死病死をテーマとした講演会を行う「いのちを見つめる集い」に参加し活動している。2002年より経王寺の住職に。http://www.kyoouji-gr.jp

私はお寺の息子に生まれましたが、仏教に興味がなく、酪農をやっていたので大学で勉強をし、アメリカの牧場で働きました。その後カナダへも行きましたが、ビザが切れて帰国。アルバイトをしながらブラブラしていると、住職だった父が「何もすることがないなら、坊さんになつてみるか？」と言うので「じゃあ、やってみるか」と。我ながら不純な動機でお坊さんになったものです(笑)。

お坊さんとして大切なことを
テレフォン相談から学んだ

ちようどそのころ、「仏教テレフォン相談」の相談員を務めることに。電話で相談を受けるのですが、人生相談もあれば仏教に関する質問もあります。「死ぬってどういうこと?」「悟りって何ですか?」……私は当初、まったく答えられませんでした。いつも反省ばかりで、終わるとぐったり。でも、それで私の人生は大きく変わりました。そこは自分がお坊さんとして何が足りないのか、気づかせてくれる場所だったので。自分には何が足りないのかわかり、足りないものを勉強する。勉強したらそれを表現できる場があり、苦しんでいる人たちと話すときに役立つ……お坊さんの仕事がこんなに深いとは思っていませんでした。

そのテレフォン相談で「あなたのお寺では法話会をやっていますか?」と聞かれました。私の寺では行っていませんでしたが、それをきっかけに毎月1日に法話会を始めようになりました。すると法話会の参加者から「お寺でプチ修行のようなことができないか」と言われ、一日修行を始めることに。さらに法話会で流していた音楽をきっかけに「お寺で生の音楽

わがわからないのだから、世間の人
もわからないだろう。だったらみんながわかるように仏教を伝えたい……そんな思いを持ちました。

ライブをやってみよう」「芝居も」……何か一つのことをやると次のヒントが出てくる。人が繋いでくられて、次の新しい挑戦へと繋がっていったのです。

メールではなく直接話すことで大切な繋がりが保てる

私ができるように人と繋がりを保持するとき、大切にしていることがあります。それは「たくさんの人と繋がらなくてもいい。でも大切な人だと思ったら、生での繋がりを大事にする」ということ。用があるときは電話、または直接会って話をします。メールでは嘘もつけないですが、生の声は嘘はつけません。そしてたまに会ったり、共同作業をするくらい緩い関係でいること。緩く、長く。それがずっと繋がっていられるコツなのです。



(右) 東京・新宿区にある経王寺。新宿山の手七福神の1つで「開運大黒天」を祀っている。
(中・左)「一日修行」などのイベントも行っている。